第49回関西女子学生剣道選手権大会

2019年6月10日

執筆者:3回生 對馬明里

（滋賀県立草津東高等学校出身）

 この度、第49回関西女子学生剣道選手権大会におきまして、優勝することができました。これもひとえに若竹会の諸先輩方、指導陣の皆様、保護者の皆様、全ての関係者の方々のおかげと深く感謝申し上げます。

私は、入学当初から関西優勝という１つの目標を掲げて日々の稽古に取り組んできました。一回生で選手権の補欠として会場に入った時、戦う選手を見て早くここで試合がしたいなと熱意にあふれていました。しかし二回生では、補欠どころか、試合見ることもない、接待という役割で会場の外にいました。時間を見つけて試合を見に行くと、選手を応援する気持ちと出場できない自分への恥ずかしさや怒りの気持ちで押しつぶされそうでした。練習を積んでも、高校の時の実績や経験が豊富な人には敵わないのかと考えたこともありました。しかし、これといった技術がない私にとって、出来ることはやはり練習を重ねることしかありませんでした。そして迎えた三回生。初めて出場する関西の個人戦は、楽しみと全日に出なければならないという少しのプレッシャーがありました。

私が今回の大会で大事にしていたことは準備力でした。2回戦で強い相手と戦うとわかっていたので、いつもその人を想定して全ての稽古に取り組んでいました。また、試合当日の緊張を和らげるために、日常生活で大会当日のことを鮮明にイメージして、何度も緊張して苦しくなることもありました。

大会当日、とにかく全日に出ることだけを考えて一戦一戦を全力で戦いました。全日が決まってからは、どこまでいけるかチャレンジャー精神を持って、楽しみながらも勝ちには執着し戦いました。決勝が終わった時、優勝したというより、ただ目の前の相手に勝ったという感覚だけで嬉しさよりも不思議さを大きく感じていました。しかし、指導陣の方々や仲間のいるところに戻った時、笑顔で「おめでとう、よく頑張った！」と迎えてくださる姿に、初めて嬉しさ、大きな喜びを感じました。それは、勝ったことにではなく、ここまで一緒に喜んでくれる人が周囲にいてくれるということへの嬉しさでした。その時、私がこうして剣道をできているのは、両親を始め、諸先輩方や指導陣、仲間がいてくれるからだと再認識し、感謝の気持ちでいっぱいになりました。私は今回の大会で、改めて、充実した環境で剣道を続けられることのありがたさを感じることができました。

 6月末の全日本選手権、東西対抗はもちろんのこと、9月以降の団体戦でも勝ち上がれるように、部員一同精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。